

ベンジャミンのお茶に浮いていた丸い物体は何なのか、『マナ』は不思議に思った。そして似た物を見たことがある様な気がしたが、どうしても思い出せなかった。

『』の『』の『』、天気もいいし、どこかに出かけるか。ところが『』の姿はそこにはなかった。『マナ』は『』を探しに家の外に出てみると、何かが頭にコツと当たった。地面に落ちた物をよく見ると、それは先程急須に入っていた丸いものと同じであった。そう言えばよく家の周りに落ちていた実みたいな物があったことを、『マナ』は思い出した。『マナ』は頭上を見上げた。そこには木に登り必死になって、先程の実を取る『』の姿があった。『』の『』、何をしている「と尋ねると、『』は「茶摘み」と言い返した。『マナ』はぶざけているのかと思い、木を蹴飛ばした。すると『』の『』はバランスを崩し木から落ちた。『マナ』はまずいと思った。しかし次の瞬間、普段動きの鈍い『』の『』は、四足で地面にきれいに着地をしていた。その見事さに『マナ』は驚いて呆気に取られていたが、頭上から無数の実が降って来て我に返った。どうやら『ベンちゃん』を蹴ったことによって、実が大量に落ちてきたようである。それを見た『』の『』は「便利便利」と言って実を拾い出した。そして『ベンちゃん』を蹴ろうと、向かって行ったが、足が短く蹴れずにひっくり返った。

ベンジャミンのお茶は、こうして頻繁に出されるようになった。『マナ』はあまり美味しいとは思わなかったが、『』の『』には好物のようである。今も『マナ』の目の前には、嬉しそうにベンジャミンのお茶を飲む『』の姿があった。

